

★なぜ貧しいキューバが「ワクチン大国」になれるのか＝ワシントン・ポスト紙

4月13日付、アンソニー・ファイオラ、ベネッサ・ヘレロ記者

カリブ海の島国キューバで開発中の新型コロナワクチンが治験の最終段階に入り、5月の接種開始を目指しているという。しかも安価で保存が容易とあり、欧米の制裁下にある国や低所得国が熱い視線を注いでいる。貧しい小国での意外なブレイクスルーに米紙が迫る（以下はヤフー・ニュースによる翻訳）。

5種類の中で最も有力な「ソベラナ2」

キューバの最高指導者だった故フィデル・カストロは、カリブ海にバイオテクノロジー大国を築くという誓いを立て、1980年代初頭にハバナの小さな研究所で6人の研究者と構想を温めた。

それから40年が経ち、共産主義を掲げるこの島国は、比類のないブレイクスルーを目前にしている可能性がある。新型コロナウイルスのワクチンを1つのみならず複数開発する世界最小の国になろうとしているのだ。

現在は5つのワクチン候補が開発段階にあり、うち2つは5月までの接種開始を目標に後期の治験に入っている。人口わずか1100万人ほどの国で、これらのワクチンが成功すれば、それは予想を覆す偉業にほかならない。

さらには、アメリカのトランプ前政権によってテロ支援国家に再指定され孤立した国にとって、イメージ戦略でも見事な勝ち星をあげることになるだろう。

キューバ当局によれば、開発中のワクチンは安価なうえに保管も容易だという。室温で数週間もち、長期保管の条件も摂氏8度でいいため、世界のワクチン競争戦で裕福な先進国に押しのけられている低所得の熱帯諸国にとって有望な選択肢になる可能性がある。

開発が成功すれば、キューバは米政府が「悪の枢軸」や「暴政のトロイカ」などと非難してきた国々の“かかりつけ薬局”になるだろう。イランとベネズエラはすでにキューバ政府とワクチン契約を結んでいる。

イランは、キューバで最も有力なワクチン候補の一つ「ソベラナ2」の第3相治験を自国で実施することで合意。これは二国間の技術移転協定の一環で、イランで大量のワクチン生産が行われることもあり得る。

ベネズエラのホルヘ・アレアサ外相は「キューバの医学・バイオテクノロジーに多大な信頼を寄せている」と、本紙ワシントン・ポストに語った。「これはベネズエラだけでなく南北アメリカの基礎となり、わが国の人々にとって真の解決策

になるでしょう」

夏までに全国民の60%に接種

キューバ当局によると、第3相治験の結果が良好であれば、首都ハバナのほぼ全住民（170万人）に接種する大規模な「介入試験」へ5月までに移行する。8月までに国民の60%、残りは年末までの接種を目指すという。

平均的な科学研究者の月収が250ドル（約2万7500円）程度のキューバだが、こうした野心的な目標を達成できれば世界でいち早く集団免疫を獲得した国の一つとなり、ワクチン目的の観光客を誘致したり、当局が年内に1億回分は生産できるとするワクチンの余剰分を輸出したりすることが可能になるかもしれない。

「一番の貢献はキューバの全人口に免疫を与え、ウイルスの感染を抑制することです」

本紙の取材に書面で回答したのは、キューバのワクチン開発を監督する国有複合企業「ビオクーバファルマ」のエドゥアルド・マルティネス・ディアス社長だ。

「この国は日常に戻ることができ、訪れたいと思う人々にとって安全な場所になるでしょう」

このワクチン開発における朗報は、キューバにとって危機的な時期と重なった。というのも、同国では昨年は比較的少なかった感染者数がここ数週間で急増し、被害の大きい中南米で新たなホットスポットの一つとなっているのだ。

そのため、タイミングの良さをいぶかる声もある。政府は失った観光収入を取り戻そうと必死になり、実験段階のワクチンを市民に押しつけようとしているのではないかという批判だ。

「実証済みのワクチンではありません」と警鐘を鳴らすのは、キューバ事情に関するウェブサイト「ユカバイト」の共同創設者ノルゲス・ロドリゲスだ。

「政府はワクチンを国民で試してみしてから、観光客を迎え入れて接種を受けてもらおうとしています。これほど大きな規模ですぐにやりたいというのは怪しすぎます」

教育と医療への投資が実を結んだ

共産党一党独裁体制のキューバでは、言論の自由や経済的自由が守られているとは言えず、政治的活動にも厳しい制限が敷かれている。だがその一方で、教育や医療への投資が、今日では極めて高度化したバイオテクノロジー研究の種をまき、

小さな途上国が少なくとも 31 の研究機関と 62 の工場、2 万人超の関連労働者を擁するに至っている。

キューバが野望を膨らませたのは 80 年代初め。米医学専門誌「ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディシン」の要約版（隔月刊）を熱心に読んでいたことで知られるカストロが、デング熱の流行を阻止するために抗ウイルス作用を持つ「インターフェロン」を人工的に作り出すという概念に興味をそそられた時期だ。

現在、キューバは国内で接種を義務付ける 11 種類のワクチンのうち 8 種類を国産し、30 余りの国に輸出している。2017 年には、キューバで開発された肺がんワクチン「Cimavax (シマバックス)」の治験が米ニューヨークのロズウェルパーク総合がんセンターで始まった。

キューバの元研究者で、現在はブラジルのサンパウロ州立大学でフェローを務めるアミルカル・ペレス・リベロールは言う。

「欧米の基準で見ても、キューバには本当に素晴らしい研究所がいくつかあります。ただ問題は、いつも別のところにあります。インターネット接続の不安定さや、部品や設備の不備などです」

WHO は慎重な見方を示すが

キューバで最も開発が進んでいる新型コロナワクチン候補「ソベラナ 2」と「アブダラ」は、2~3 回の接種を必要とする。「両ワクチンが作り出す免疫のレベルは高いです」と前出のマルティネスは強調する。キューバの科学者たちは海外への発表に向けてワクチンの臨床データをそろえている最中だという。

世界保健機関（WHO）の米州事務局である汎米保健機構（PAHO）のジャーバス・バルボサ副事務局長は今週、WHO がキューバのワクチン候補を承認するには最長で 6 ヶ月かかる可能性があるとし唆した。もちろん有効性が証明された場合の話だ。

「あらゆるワクチン開発を歓迎しますが、世界中のすべてのワクチンは品質や安全性、有効性を確保するために同じ基準を満たす必要があります」とバルボサは記者団に語った。

イランへの技術移転と共同治験

とはいえ、キューバのワクチン開発が成功すれば、アメリカの制裁下にある他の国々、特にベネズエラやイランにとって文字通りの“カンフル剤”となるだろう。

イランの最高指導者ハメネイ師は1月、「まったく信用できない」として米英製ワクチンの輸入を禁止した（それでもイランは英製薬大手アストラゼネカのワクチンを発注しているが）。その数日後、キューバとイランは両国での接種拡大に向けた協定の一環として、イラン人の志願者5万5000人を対象に、キューバが開発中の最有力ワクチンの治験を実施すると共同で発表した。

イラン保健省報道官はこの協定について、イランへの技術移転とワクチンの共同生産を可能にするものだと言明。イラン保健当局は最大で4000万回分の生産につながる可能性を示唆している。

キューバは自国のワクチンを貧困国に無償か原価程度で提供する方針を示している。

カリブ海の島国アンティグア・バーブーダのロナルド・サンダース駐米大使は、欧米のワクチンは小国には手の届かない価格設定であるうえ、ワクチンの公平な供給を目的とした国際的枠組み「COVAX（コバックス）」は対応が遅いと指摘する。

「わが国はキューバとの二国間協定を望みます。欧州とアメリカ、カナダがすでにワクチンをすべて買い占めました。そのため、キューバが治験を成功させたワクチンをWHOが承認したあかつきにはもちろん、喜んで行列に並びますよ」

(4/13 配信、Yahoo News の添付写真と説明)



イタリアのトリノに掲げられた、キューバの医療団に感謝を示す横断幕。キューバの医療はかねてより先進国に劣らない高水準であることが知られており、パンデミック初期にはイタリアをはじめ世界各国に医師らを派遣した Photo by Massimiliano Ferr...



ハバナ市民はもうすぐ国産ワクチンを接種できるかも？



ハバナ市内のレストラン「フロリディータ」の有名なヘミングウェイ像もマスクで感染対策
Photo by Francois LOCHON/Gamma-Rapho via Getty Images

★キューバのワクチン開発状況の説明＝在日キューバ大使館

東京にあるキューバ大使館が4月14日、新型コロナウイルスに対応したキューバの国産ワクチンの開発状況について講演会を行い、3つのワクチンが最終段階の臨床試験に進んでいると説明しました。講演会はオンライン上で開かれ、日本

のメディアや国会議員、専門家など100人あまりが参加しました。

大使プレゼン資料はをこちらを参照。

講演会の模様は、以下のリンクで視聴できます。

<https://www.youtube.com/watch?v=l3leFA8NoRo>